

和具大島の自然を守る活動② 「ドブネズミ駆除作業」

平成17年から和具大島においてドブネズミの糞や食痕が、確認されるようになりました。島内へどのような侵入したのか、はっきりわかりませんが、今、和具大島ではドブネズミの増加が問題となっています。残念なことにアカウミガメの産卵巣が食べられたり、野鳥の巣が壊されるなどの被害が出ています。なか

でも、ウチヤマセンニュウは離島で繁殖し数が少ないため、ドブネズミなどの外敵が侵入した場合、その数が減ってしまう恐れがあります。

現在は捕獲器を使って、ドブネズミの駆除を行っています。ドブネズミの捕獲器では、対処できない状態です。また、頻繁に足を運べる場所ではないため、作業が思うように進まないといえます。完全に駆除するには、捕獲器のほかにもっと良い方法はないか…と今後の対策に頭を抱えています。

守りたい自然「和具大島」

「和具大島」は、県の天然記念物に指定されている暖地性植物群落のほか、アカウミガメ、野鳥などの貴重な生息地あるいは繁殖地となることがわかっていきます。

子どもの頃から、和具大島を訪れていた中村さんには、「大島の自然が、このまま保たれていったらいいな」という想いがあります。ユッカランやドブネズミなど、後から侵入した外来生物によって、在来生物の生息

が脅かされている現状に中村さんは心をいためています。海に囲まれた小さい島内で、少しの環境の変化がそこにすむ生物にとっては、大きな影響となる可能性があります。「和具大島」は、壊れやすい自然であるということがいえるでしょう。

中村さん「元々の自然環境を保つために、人間が手を入れて守っていただく。だけどそれ以外は、自然に任せようという考え方です。」

中村さんたちの活動が実を結んで、和具大島の豊かな自然環境が、将来にわたって続いていくことを期待しています。

写真提供 志摩半島野生動物研究会 中村みつ子さん

志摩半島野生動物研究会

ホームページ

<http://shima-yaseiken.sakura.ne.jp/>

三重県志摩半島を中心に活動する志摩半島野生動物研究会では、「野生動物学習会」や「自然観察会」などを行っています。

平成23年度「ユッカラン駆除作業」については随時、志摩半島野生動物研究会ホームページなどでお知らせします。

◀アカウミガメの産卵巣のドブネズミによる食害



◀捕獲器を置いた場所に印をしないと、植物に覆われてしまい、わからなくなってしまう。



◀捕獲されたドブネズミ。体長20～30センチほど。



▲和具大島で観察会の下見を行う中村さんたち。

